

刀銘 備前國住長船与三左衛門尉祐定/天文六年二月吉日

法量 刃長 623mm 反り 25mm 元巾 31.0(31.8)mm 元重 5.6mm 鎗重 8.7mm 先幅 20.0(20.5)mm 先重 5.1mm 先鎗重 4.0mm

形状 鎗造り、身幅広く、鎗巾広く、鎗を大きく卸し、中筋目立って細いやや低めの真棟。反り深く、切先延びる。

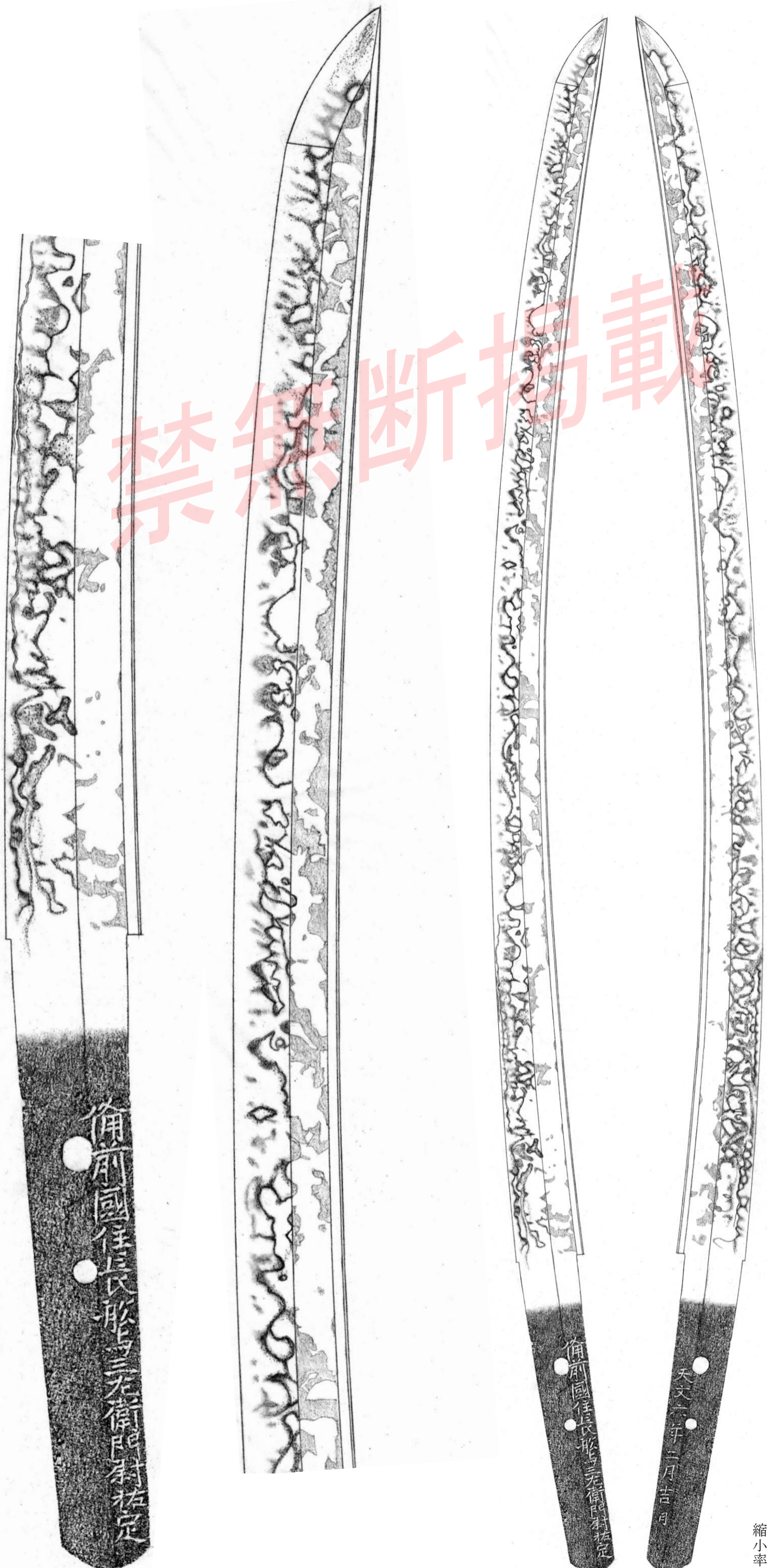
鍛 小板目に地沸厚くつく。

刃文 複式互の目を基調に複雑な小互の目、丁子を交え、よく沸びいて、金筋掛かり、足、葉よく入り、飛び焼き、棟焼き掛かって皆焼となる。

帽子 焼き深く殆ど一枚、先掃き掛ける。

茎 生ぶながら鉦下に新鑓掛かる。先栗尻、茎棟棟区下一寸迄は小肉、以下角、刃方は角、鑓目勝手下り。

第50回重要刀剣。刀剣美術誌第695号「名刀鑑賞」所載



縮小率50%